

厚別西まちづくりセンター

だより 第6号

厚別西まちづくりセンター 2007年4月発行
(厚別西2条3丁目8-31 ☎891-4555)

第6回まちづくり会議開催

3月8日(木)午後6時から厚別西会館で「第6回厚別西地区まちづくり会議」が開かれました。会議には、様々な地域活動に取り組む41団体、59名の方々が参加されました。

今回は、地域の防災を考える講演会を中心に、防犯・子ども安全対策検討部会からの報告と、防災に関する部会の設置についても話し合いました。



パソコンの画像を使い熱心に説明する佐々木先生

防災の講演会

北海道教育大学札幌校の佐々木貴子助教授を講師にお招きして、「災害を知る まちを知る 人を知る DIGの手法」というテーマでお話していただきました。

講演のポイントをいくつかご紹介します。

地震の多い釧路方面(先生の出身地)では、『「いざ」は「普段」なり』という言葉が広く知られている。地震(いざ)の時の備えは普段の生活の中でしておくことが大事。

阪神淡路大震災では、消防などの公共

に助けられた人は、わずか1.7パーセントだけ。自力、家族、隣人に助けられた人がほとんど。自分の命は自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守ることが基本。

DIGって何?

英語のDisaster(災害)Imagination(想像)Game(ゲーム)の頭文字で、災害図上訓練と訳されています。

住んでいる地域の地図を見ながら、災害が起きた時を想像して、何をしなければいけないか、必要なものは何かなどを話し合うものです。地域の状況を再認識できます。

避難所での生活は、1泊の模擬体験で

も相当応えるもの。長期になると睡眠、食事、水分補給そしてトイレ、一つひとつが大きな問題になる。

町内会ごとにつくられている自主防災組織は、具体的な活動で活性化することが大事（防災施設の確認や、小中学生を含めて災害時の対応ができる人を育てるなど）。

自分たちの地域が災害に強いかどうか、人間関係なども含めて DIG（災害図上訓練）によって確認していくことができる。DIG は自分たちのまちを知る道具である。



迫力のある説明に真剣に耳を傾ける参加者

防犯部会から

「防犯・子ども安全対策検討部会」から、これまでの取組みと活動状況について土田部会長から報告がありました。具体的な内容としては

防犯チョッキの協力者が、23 団体 191 名に達している。

森林公園町内会とパルクハウス町内会が昨年 7 月から、厚別西厚信会が今年の 1 月から青色回転灯パト車をそれぞれ 5 台導入。

各小学校で低学年児童に防犯ブザー配布、また、各 PTA で安全マップを作成。日常活動として、各町内会、スクールガードによる通学路周辺の見回り実施。などが説明されました。

防犯チョッキの FAX 連絡網については、主要な役員等に優先して送る 2 段階方式とし、E Mail 等の活用も検討するという改善案が報告されました。また、部会のメンバーについて、全ての町内会から参加してもらおう方向で見直すことが報告され、それぞれ承認されました。

新たに防災の部会

地域全体で取組める新たなテーマとして、事務局から「防災」が提案されました。佐々木先生の講演会にもありましたが、防災は町内会の区域にとどまらず、日ごろの準備や地域の連携が大切です。

今後、各町内会と関係団体の代表による部会をつくり、取組みを検討していくことが承認されました。防犯の取組みとあわせて、皆様のご協力をお願いいたします。

改めまして

これまでの「まちづくり会議だより」を「まちづくりセンターだより」と改めました。これからは、まちづくり会議以外の話題も載せていきたいと考えています。

平成 19 年度の厚別西まちづくりセンターのスタッフは、昨年に引き続きこの 3 人です。

所長 北原 良紀

連絡員 中川 光枝

連絡員 穴田 幸子

どうぞよろしく願いいたします。

*この「たより」は、町内会のご協力により各家庭に回覧していただいております。